

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターはぐはぐ子ども村西都		
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日		～ 令和7年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		～ 令和7年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3 月 20 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援環境が良い。	園庭が広く交通量も多くない場所にあるので自然に触れたりダイナミックに遊べる環境である。職員配置も基準以上の人員を配置している。	固定遊具もあり園庭も広いことや自然にちなんだ行事等も取り入れこどもの感性に触れた支援に生かしていく。集団や個別での遊びを通して個々の発達を支援していく。
2	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。	こどものことを理解するために保育士・教諭経験者・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士・音楽療法士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・臨床心理士・公認心理師などの専門スタッフが療育や相談にたずさわっている。	保護者のニーズに合わせた目標をたて、専門スタッフがたずさわり個々の特性を見ながら支援をしている。これからも丁寧に関わり目標に向けて、こどもに無理なく楽しみながら支援できる療育を行っていく。
3	職員の資質向上を図るために研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	法人内では毎月ケース会議を行っている。代表が公認心理師のため専門性の知識を高めたり自己研鑽の場となっている。また社外の研修にも受講の機会が確保がされ全職員が研修できるよい環境である。	ケース会議では固定化しないよう療育以外の内容も取り入れ研修している。法人主催の講演会にも職員が参加でき充実した研修になっている。法人内外に問わず資質向上に努めたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練の周知ができていない。	お便りやミニお便りで周知しているが、保護者には浸透していない様子が伺える。	これからも随時お便りやメール等で発信していき周知を図りたい。
2	保護者同士の交流の機会が設けられたり家族への支援がされていない。	今まではコロナ禍で自粛していたが今年開催することができた。	保護者会や見学、祭りなどの開催を増やし、案内を通して多くの方が参加し楽しく交流ができる場を提供していきたい。
3	情報発信	写真付きのお便りや電話やメールで知らせているが近況報告などの情報提供してほしいと要望がある。	電話やメールで利用者様の成長などお伝えしたり、ホームページ、毎月のお便り等発信をしているがお便りの内容をわかり易く見やすいものに工夫したり発信の仕方を考える。